

米国農務省穀物等需給報告(2024 年7月 12 日発表のポイント)

令和6年7月16日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、7月12日(現地時間)、2024/25年度の3回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2024/25年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓→は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 28億 3,674 万トン(対前年度比 1.0%増) ↑
- ② 消費量: 28億 3,913 万トン(対前年度比 0.8%増) ↑
- ③ 期末在庫量: 7億 7,373 万トン(対前年度比 0.3%減) ↑
期末在庫率: 27.3%(対前年度差 0.3ポイント減) ↑

【主な品目別の動向】

小麦 : 米国での収穫面積及び単収の増加、パキスタンでの単収の増加、カナダでの平原3州における土壌水分の改善等から、前月より上方修正され、世界の生産量は前年度より増加する見通し。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 7億 9,619 万トン(対前年度比 0.9%増) ↑…米国、インド、中国、カナダ、豪州、カザフスタン、アルゼンチン等で増加、ロシア、EU、ウクライナ、英国等で減少(前月に比べ米国で上方修正)
- 2 消費量: 7億 9,994 万トン(対前年度比 0.1%増) ↑…中国等で減少
- 3 期末在庫量: 2億 5,724 万トン(対前年度比 1.4%減) ↑…米国等で増加、EU、ロシア等で減少(前月に比べ米国、中国で上方修正)
期末在庫率: 32.2%(対前年度差 0.5ポイント減) ↑

とうもろこし: カナダでの収穫面積の減少、欧州南東部及びロシア南部と北コーカサス地方における生育初期の過度な高温により単収が減少し、生産量が前月より引き下げられたものの、米国で収穫面積の増加から引き上げられ、世界全体では前月より上方修正。ただし、世界の生産量は前年度より減少する見通し。世界の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 12億 2,479 万トン(対前年度比 0.1%減) ↑…ブラジル、中国、EU、南アフリカ、メキシコ等で増加、米国、ウクライナ等で減少(前月に比べ米国で上方修正)
- 2 消費量: 12億 2,228 万トン(対前年度比 0.3%増) ↑…中国等で増加
- 3 期末在庫量: 3億 1,164 万トン(対前年度比 0.8%増) ↑…米国等で増加
期末在庫率: 25.5%(対前年度差 0.1ポイント増) ↑

コメ(精米): パキスタンで良好な作付条件及び豊富な灌漑用水に恵まれたこと、米国では収穫面積の増加に加え、比較的単収が高い中粒種と短粒種の収穫面積が増加したこと等を受け、前月より上方修正され、世界の生産量は前年度より増加する見通し。パキスタン及びフィリピン等の消費量が前月より上方修正され、世界の消費量は史上最高となる見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 5億 2,817 万トン(対前年度比 1.4%増) ↑
- 2 消費量: 5億 2,727 万トン(対前年度比 0.8%増) ↑…インド等で増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量: 1億 7,809 万トン(対前年度比 0.5%増) ↑
期末在庫率: 33.8%(対前年度差 0.1ポイント減) ↓

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

米国で収穫面積の減少を受け前月より下方修正されるものの、世界の生産量は前年度より増加する見通し。なお、アルゼンチン農牧漁業省のデータに基づきアルゼンチンの2023/24年度の実生産量が前月から下方修正された。世界の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 4億 2,185 万トン(対前年度比 6.7%増) ↓…ブラジル、米国等で増加
- 2 消費量: 4億 154 万トン(対前年度比 5.0%増) ↓…中国、アルゼンチン、米国等で増加
- 3 期末在庫量: 1億 2,776 万トン(対前年度比 14.8%増) ↓…ブラジル、アルゼンチン、中国、米国等で増加(前月に比べ中国で上方修正)
期末在庫率: 31.8%(対前年度差 2.7ポイント増) ↓

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2024年7月12日発表)

【穀物】 (単位：百万ト)

項目 \ 年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25			(参 考) 2012/13
			(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体						
生産量	2,756.38	2,810.02	2,836.74	1.0%	7.2	2,299.6
消費量	2,770.90	2,817.89	2,839.13	0.8%	2.0	2,287.4
期末在庫量	783.99	776.12	773.73	▲ 0.3%	5.8	480.9
期末在庫率	28.3%	27.5%	27.3%	▲ 0.3	0.2	21.0%
小麦						
生産量	789.01	788.95	796.19	0.9%	5.4	660.8
消費量	791.26	798.98	799.94	0.1%	1.9	680.3
期末在庫量	271.02	260.99	257.24	▲ 1.4%	5.0	180.6
期末在庫率	34.3%	32.7%	32.2%	▲ 0.5	0.5	26.5%
粗粒穀物						
生産量	1,451.54	1,500.19	1,512.38	0.8%	1.2	1,162.7
消費量	1,459.54	1,495.80	1,511.92	1.1%	▲ 0.8	1,142.2
期末在庫量	333.56	337.94	338.40	0.1%	0.8	176.4
期末在庫率	22.9%	22.6%	22.4%	▲ 0.2	0.1	15.4%
とうもろこし						
生産量	1,159.60	1,225.45	1,224.79	▲ 0.1%	4.3	903.3
消費量	1,171.01	1,218.66	1,222.28	0.3%	0.1	880.8
期末在庫量	302.33	309.13	311.64	0.8%	0.9	145.8
期末在庫率	25.8%	25.4%	25.5%	0.1	0.1	16.6%
コメ(精米)						
生産量	515.83	520.87	528.17	1.4%	0.5	476.1
消費量	520.09	523.11	527.27	0.8%	0.8	464.9
期末在庫量	179.42	177.19	178.09	0.5%	0.1	123.9
期末在庫率	34.5%	33.9%	33.8%	▲ 0.1	▲ 0.03	26.7%

【大豆】

項目 \ 年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25			(参 考) 2012/13
			(予想)	前年度比	前月差	
生産量	378.37	395.41	421.85	6.7%	▲ 0.4	269.0
消費量	366.44	382.50	401.54	5.0%	▲ 0.1	265.4
期末在庫量	100.61	111.25	127.76	14.8%	▲ 0.1	58.3
期末在庫率	27.5%	29.1%	31.8%	2.7	▲ 0.03	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2024年7月12日発表)

【穀物】 (単位：百万トン)

項目 \ 年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25			(参 考)
			(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	2012/13
全体						
生産量	406.43	459.13	459.22	0.02%	9.4	353.0
消費量	349.89	364.56	367.27	0.7%	2.2	317.1
輸出货量	67.85	85.18	88.50	3.9%	1.0	51.6
期末在庫量	53.60	70.85	81.11	14.5%	2.7	44.2
期末在庫率	12.8%	15.8%	17.8%	2.0	0.5	12.0%
小麦						
生産量	44.90	49.31	54.66	10.8%	3.6	61.3
消費量	30.33	30.23	30.86	2.1%	0.3	37.8
輸出货量	20.73	19.24	22.45	16.7%	0.7	27.5
期末在庫量	15.50	19.11	23.31	22.0%	2.7	19.5
期末在庫率	30.4%	38.6%	43.7%	5.1	4.3	29.9%
粗粒穀物						
生産量	356.45	402.89	397.52	▲ 1.3%	5.8	285.3
消費量	314.97	329.35	331.33	0.6%	1.9	275.5
輸出货量	45.06	62.89	62.84	▲ 0.1%	0.3	20.7
期末在庫量	37.14	50.48	56.34	11.6%	▲ 0.04	23.5
期末在庫率	10.3%	12.9%	14.3%	1.4	▲ 0.1	7.9%
とうもろこし						
生産量	346.74	389.69	383.56	▲ 1.6%	6.1	273.2
消費量	305.93	320.82	322.09	0.4%	1.9	263.0
輸出货量	42.22	56.52	56.52	-	0.6	18.5
期末在庫量	34.55	47.67	53.26	11.7%	▲ 0.1	20.9
期末在庫率	9.9%	12.6%	14.1%	1.4	▲ 0.1	7.4%
コメ(精米)						
生産量	5.08	6.93	7.04	1.6%	0.1	6.3
消費量	4.60	4.99	5.08	1.8%	-	3.8
輸出货量	2.05	3.05	3.21	5.2%	0.03	3.4
期末在庫量	0.96	1.27	1.46	15.0%	0.1	1.2
期末在庫率	14.4%	15.8%	17.6%	1.8	0.5	16.1%

【大豆】

項目 \ 年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25			(参 考)
			(予想)	前年度比	前月差	2012/13
生産量	116.22	113.34	120.70	6.5%	▲ 0.4	82.8
消費量	63.29	65.41	68.99	5.5%	-	48.6
輸出货量	53.87	46.27	49.67	7.3%	-	36.1
期末在庫量	7.19	9.40	11.85	26.1%	▲ 0.5	3.8
期末在庫率	6.1%	8.4%	10.0%	1.6	▲ 0.4	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

- 注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
- 2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
- 3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)
- 4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
- 5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
- 6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
- 7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考 1)

世界の穀物等の価格動向 (2024 年)

● 小 麦 : 5.72 ドル/bu (前年同時期の価格 : 6.40 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2024 年 7 月第 1 週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022 年 3 月 7 日))

【1 月～3 月】

2 月半ばまでは、米国産に対する低調な輸出需要等から 6 ドル/bu 台前後で上下。2 月半ば以降、米国アウトルックフォーラムで 2024/25 年度の米国産期末在庫量が予想を上回ったこと等を受け一時 5 ドル/bu 台半ばに値を下げたものの、安値感から買い戻され、5 ドル/bu 台後半まで値を戻した。

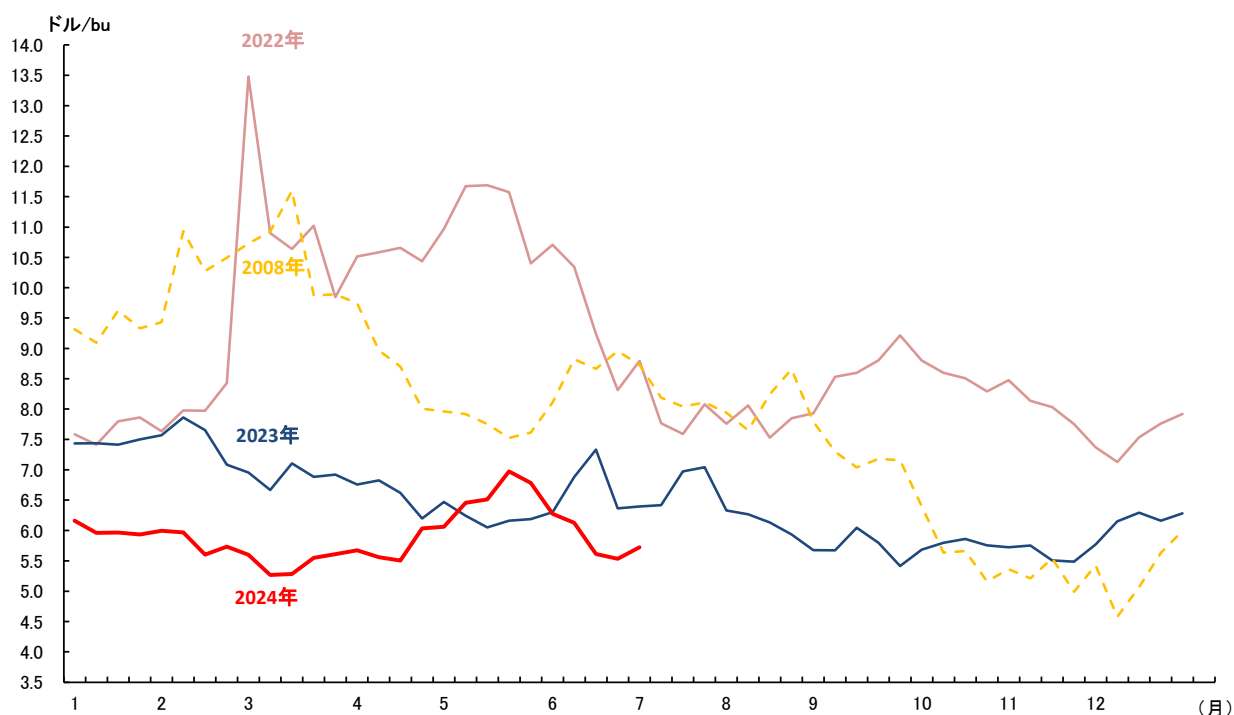
3 月前半には、黒海地域からの潤沢な供給と米国産に対する低調な輸出需要から 5 ドル/bu 台前半まで値を下げ、3 月半ば以降、ロシアによるウクライナの港への攻撃で黒海の情勢が緊迫化したこと等により 5 ドル/bu 台半ばまで値を上げた。

【4 月以降】

4 月に入り、黒海地域の緊迫化による供給不安等から一時値を上げたものの、米国農務省需給報告で米国の期末在庫量が上方修正されたことや主要生産地の降雨予想等から 5 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。下旬以降、中東での緊張の高まりや米国及びロシアの乾燥懸念等により値を上げ、5 ドル/bu 台後半で推移。

5 月に入り、ロシアにおける乾燥及び霜害による減産懸念から 6 ドル/bu 台後半まで値を上げた。その後、米国の冬小麦の作柄改善等を受け一時的に値を下げる場面もあったものの、ロシアの減産懸念から、5 月末現在、6 ドル/bu 台後半で推移。

6 月に入り、米国産冬小麦の良好な作柄と順調な収穫等を受けて 6 ドル/bu 台前半まで下落。その後、ロシアにおける乾燥及び霜害による減産懸念等があったものの、米国産冬小麦の収穫進展及びロシア等の供給の改善見込み等により値を下げ、6 月末現在、5 ドル/bu 台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.11 ドル/bu（前年同時期の価格：5.61 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年7月第1週末のセツルメント価格】

（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012年8月21日)）

【1月～3月】

1月に入り、南米の降雨予想や米国の低調な週間輸出成約高から4ドル/bu台半ばまで下落。

2月下旬には、米国農務省需給報告及び米国アウトルックフォーラムで米国産期末在庫量が市場予想を上回ったこと、南米の生産見通しの改善から4ドル/bu割れまで値を下げたものの、2月末にかけ、米国産の週間輸出検証高が予想を上回ったことや安値感からの買戻しにより4ドル/bu台前半まで値を上げた。

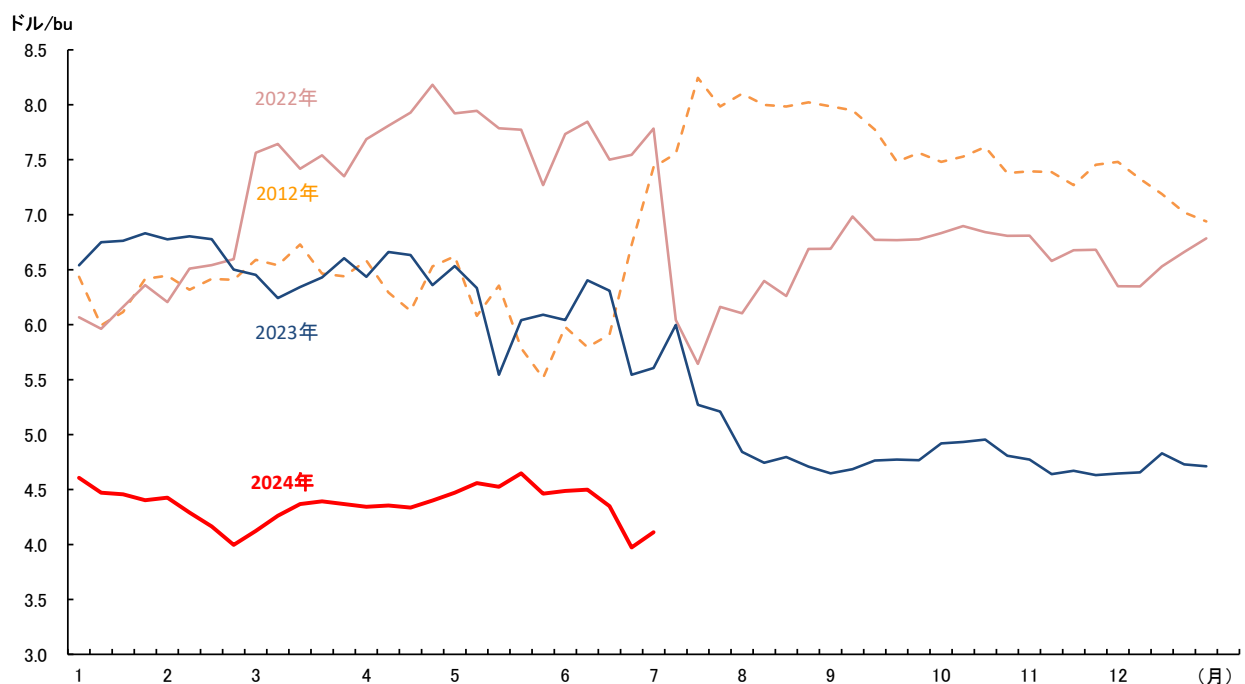
3月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出やアルゼンチンの降雨過多等による作柄懸念を受け4ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、一時4ドル/bu台前半に値を下げたものの、米国農務省が発表した作付意向面積報告が市場の事前予想を下回ったため4ドル/bu台半ばまで値を上げた。

【4月以降】

4月に入り、米国中西部での生産に適した天候が今春の作付け拡大につながるとの見通しから4ドル/bu台前半まで値を下げた。その後、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇等により値を上げ、4ドル/bu台半ばで推移。

5月に入り、米国中西部での作付け遅延及びブラジル南部での洪水被害を受けて、4ドル/bu台半ばまで上昇。その後、米国農務省の穀物需給報告での期末在庫量が市場予想を下回ったことを受けて4ドル/bu台後半近くまで値を上げたものの、米国の順調な作付け進捗等を受けて値を下げ、5月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。

6月に入り、米国中西部での順調な作柄進捗及び良好な作柄報告を受けて4ドル/ブッシェル前半近くまで値を下げたものの、中旬、米国中西部における高温による作柄懸念等を受け4ドル/ブッシェル半ばまで値を上げた。その後、米国中西部における降雨予報及び米国の作付面積予測が市場予想を大きく上回ったこと等を受けて値を下げ、6月末現在、3ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：617 ドル/トン（前年同時期の価格：532 ドル/トン）

【価格は、7月第1水曜日の価格が公表されなかったため、タイ国家貿易取引委員会における2024年6月最終水曜日のFOB価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン（2008年5月21日））

【1月～3月】

1月に入り、インドネシアの追加輸入や旧正月、ラマダーン（断食月）などを控えたASEAN諸国からの需要増加等から値を上げ、一時680ドル/トン台前半まで上昇したものの、2月に入り、旧正月でアジアの市場が停滞したことや、2月上旬のインドネシア政府の入札が成立しなかったこと、2月末から3月初めの新穀（乾季米）の入荷待ちによる需要の軟化等から、一時的に620ドル/トン台に値を下げた。

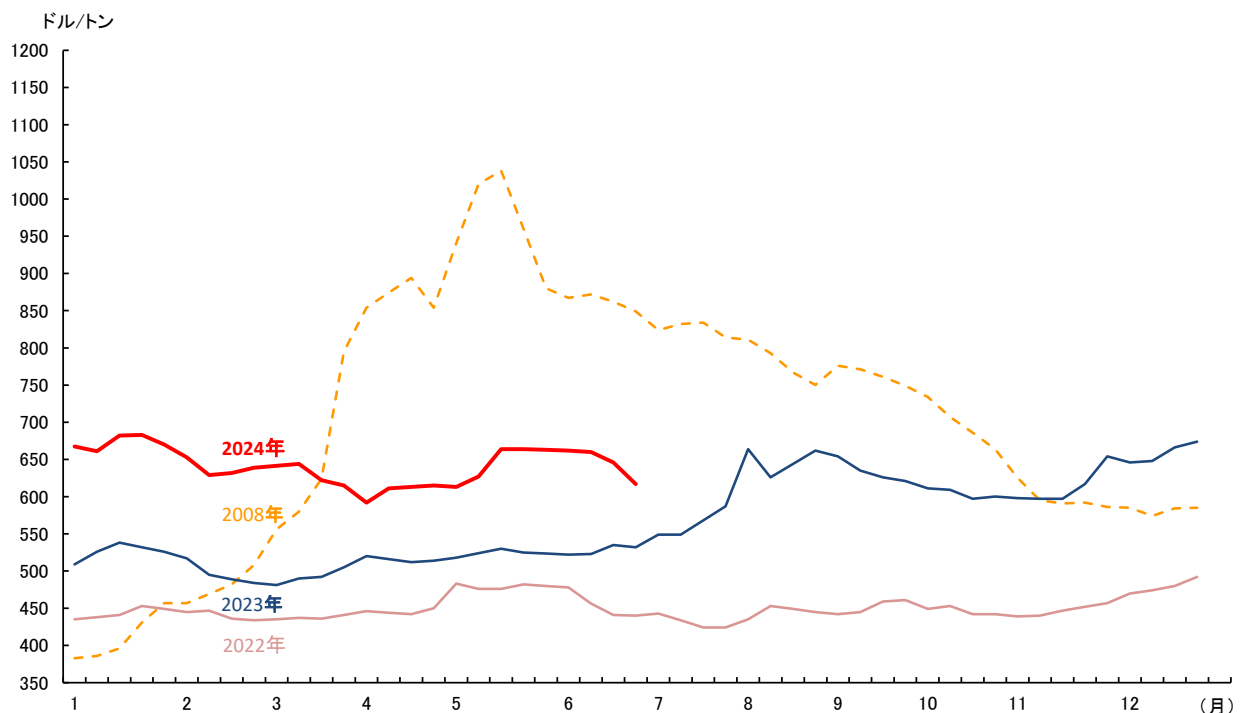
3月に入り、インドネシア政府の入札が4日に成立したことや、3月末にインドネシア政府が再び入札を行う可能性があるとの市場の予測等から値を上げ、一時640ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、3月下旬には、新穀の市場への流入継続等から610ドル/トン台半ばまで値を下げた。

【4月以降】

4月に入り、乾季米の市場への流入が続いていることから、一時590ドル/トン台前半まで値を下げたものの、インドネシア政府が30万トンの入札を公示し、そのうち11万トンをタイから5月末までに輸入すること等から値を上げ、4月下旬現在、610ドル/トン台前半で推移。

5月に入り、乾季米の収穫が終盤を迎えており、市場への流入が減速しているものの、5月末までにインドネシアがタイから11万トンを輸入すること等から値を上げ、5月下旬現在、660ドル/トン台半ばで推移。

6月に入り、タイ産米の価格がベトナム産米に比べ価格優位性が低いこと等による需要の軟化や国内価格の下落等から値を下げ、6月下旬現在、610ドル/トン台後半で推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）
グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年と直近3年の価格推移。

● 大 豆 : 11.89 ドル/bu (前年同時期の価格 : 14.86 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2024 年 7 月第 1 週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日))

【1 月～3 月】

1 月に入り、ブラジルでの降雨等を受け 12 ドル/bu 台前半までに値を下げた。その後、原油高に連動する形で 12 ドル/bu 台半ばに値を上げたものの、1 月の米国農務省需給報告で米国産の生産量が上方修正されたことや、アルゼンチンの増産見通し、ブラジルの降雨等から 1 月末にかけ 12 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

2 月半ばにかけ、米国の週間輸出成約高や南米の高温乾燥や降雨予報を受け、11 ドル/bu 台後半から 12 ドル/bu 前後で推移。2 月末にかけ、米国アウトルックフォーラムで米国産の生産量、期末在庫量が市場予想を上回ったことや、南米産の収穫の進展及び生産見通しの改善から 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

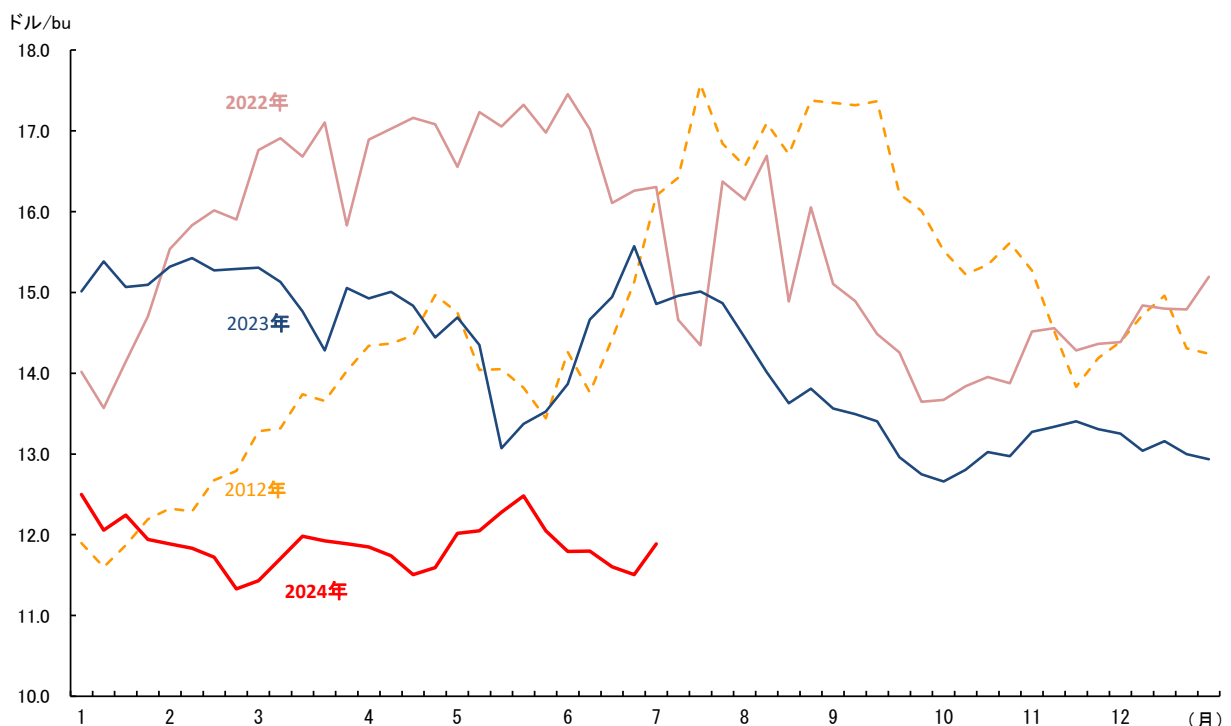
3 月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出需要やブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から 12 ドル/bu 台前半まで値を上げた。その後、米国農務省が発表した作付意向面積や四半期在庫が前年より増加したことから 11 ドル/bu 台後半まで値を下げた。

【4 月以降】

4 月に入り、南米産の供給増を受けた相対的な米国産の価格競争力の低下による米国の輸出需要の鈍化等から 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。下旬以降、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇等により値を上げ、11 ドル/bu 台半ばで推移。

5 月に入り、ブラジル南部での洪水被害を受けた供給減少の懸念等から 12 ドル/bu 台半ばまで上昇したものの、米国での順調な作付進捗等を受けて下落に転じ、5 月末現在、12 ドル/bu 台前半で推移。

6 月に入り、米国産の順調な作付進捗及び原油安等を受けて 11 ドル/bu 台後半まで下落。その後、ブラジルの生産見通しの下方修正等から 12 ドル/トン台まで上昇したものの、米国産の順調な作付進捗及び米国の作付面積予測が市場予想を上回ったこと等を受けて値を下げ、6 月末現在、11 ドル/bu 台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
108.99	106.78	109.80	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	141.21
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
144.77	147.67	149.53	149.83	144.07	146.57	149.42	149.63	153.43	156.13	157.82

出典： 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
45.01	52.79	65.79	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	42.73
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
49.49	52.48	51.30	52.75	56.27	51.39	50.39	54.74	53.56	54.31	53.28

出典： 米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

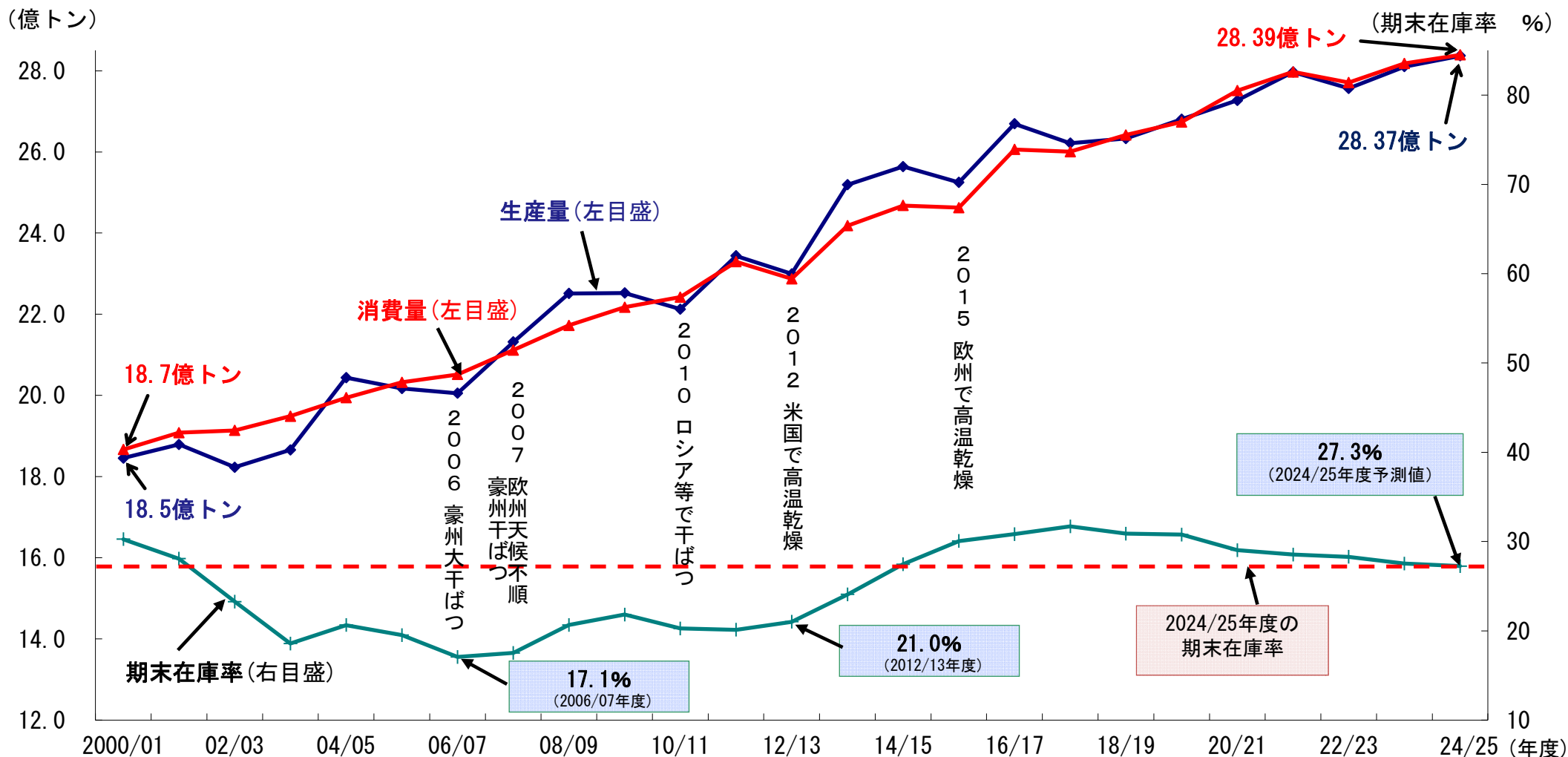
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
57.03	39.40	74.66	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.52	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.27	76.03
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
81.32	89.43	85.47	77.38	72.12	73.86	76.61	80.41	84.39	78.62	82.69

出典： 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ 月次アップデート」令和6年6月, 116頁
但し、2024年6月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.3%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2024)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。